

パイロットフォレストに対する意識と利用ニーズ
～地域住民への情報発信のあり方に関する基礎研究～

根釧西部森林管理署
長谷川 学
石橋 美幸

1 背景と目的

これまでパイロットフォレスト（以下 PF）では一般市民に対しふれあいイベントの開催や環境教育の場の提供などを積極的に行ってきました。今後も市民の森林に対する関心とともに木材資源の持続的供給への期待が高まる中で、自然環境保全と調和させた持続可能な北方林業の姿を示すとともに、より広く地域住民へ情報発信をしながら周辺地域との良好な関係を築いていくことが重要と考えます。そこで本研究では、PF に関する情報発信について現在の課題を整理し今後のあり方を考える上で参考とすべく、国有林主催イベントの参加者および PF が所在する地域住民の PF に対する意識と利用ニーズに関するアンケート調査を行い、両者の比較考察を行いました。

2 調査研究手法とアンケート内容

イベント参加者には各イベント時に現地でアンケート票を配布し、83 通（回収率 100%）の回答を、地域住民には PF の所在する標茶町・厚岸町全域にて無作為抽出により計 700 世帯（想定 1400 人）に対し直接投函の形で配布を行い、152 世帯 218 通（世帯回収率 22%）の回答を得ました。また意識と利用に関する総合的な把握のため、以下 16 項目の質問を設定しました。

＜第 1 部 回答者の属性＞1. 年齢 2. 性別 3. 住所 4. 職業（職種）5. 森林保全活動に対する関心・積極性 6. PF の知名度 ＜第 2 部 PF の林業に対する意識＞7. 今後のカラマツ林施業の推進に対する総合的評価 8. PF の森づくりの方針に関する評価 9. PF の林業が与える影響に関する機能毎の評価 ＜第 3 部 PF の利用に関する調査＞10. イベント参加経験の有無 11. 情報を得た手段 12. 体験内容 13. イベント参加で得た知識 14. PF 利用の希望 15. 利用希望の季節と目的 16. PF に対する要望、意見（自由回答）

3 結果

＜第 1 部＞イベント参加者は 8 割が 60 代以上、9 割が釧路市内在住であった一方、PF を知っている人の割合はイベント参加者が約 6 割、地域住民が 7 割以上の結果となりました。＜第 2 部＞各設問とも両方で回答傾向に顕著な差はなく、カラマツ林施業の推進に関しては評価する回答が 7 割以上、今後推進すべき樹種として「カラマツ」が 3～4 割で「カラマツ以外の針葉樹」「広葉樹」が各 2 割、PF 林業の影響に関しては各項目とも、50～60%程度が良い評価、20～30%程度が「わからない」との回答でした。＜第 3 部＞イベント参加者では約 5 割（複数回参加が 3 割）が PF でのイベント参加経験があり、6 割が新聞による情報入手である一方、地域住民は参加経験が約 1 割にとどまり、中でも地元の集まりでの利用等が多いようです。体験内容は両者とも遊歩道散策、望楼見学が特に多く、知った知識については、平均選択数はイベント参加者が地域住民の 2 倍（15 項目中 6.5 項目）となり情報発信効果が認められます。今後の PF 利用希望はイベント参加者が 95%、地域住民が約 6 割でニーズは高く、季節は春と秋、目的は森林散策や望楼見学が多くなりました。自由回答は、地域住民からはより積極的な PR を求める声や、勝手に入っていいかわからないという声、PF を一般的な森として捉えたと思われる意見が多くありました。

4 考察

国有林としてこれまでも情報発信しているにも関わらず、PF の近くの地域住民にはほとんど伝わらず利用されていない現状が明らかとなりました。住む距離も近く PF の知名度も高いのに、逆にイベント参加など積極的な利用の機会が与えられない状況となっています。これには情報発信媒体の問題だけでなく、集合が早朝かつ場所が釧路の署のみという、イベントの構造的な問題に起因する部分が大きいですと考えます。PF の利用ニーズも高く、中でも自然環境に対し負荷の少ない利用の要望が多いことから、地域住民に対するこれらの利用機会を高め、遊歩道や案内板等の整備や常設展示のさらなる充実などにより一層の情報発信を図っていくことが必要です。また国有林主催のイベントについては、参加者の価値観を変えるほどには至らないまでも、情報発信効果は認められる結果となりました。今後は一般の人に理解を深めて欲しい内容とは何かを十分に整理し、実際の体験と併せてわかりやすく伝えていくべきだと考えます。